2017.7
No. 37

佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して　News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号　TEL 0952-31-6511(代)　病院ホームページ http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/

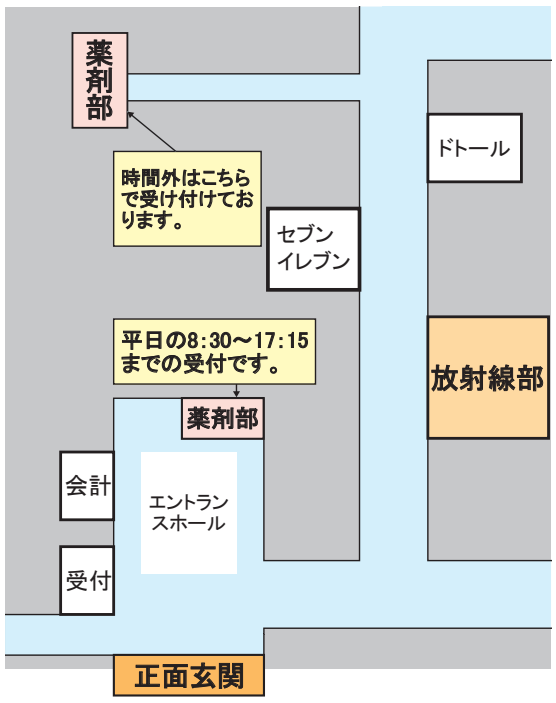
広く、明るく、放射線部リニューアルしました！

放射線部長　入江　裕之

平成29年4月に一般撮影室の改修が終了し、放射線部の再整備改修工事が完了しました。

放射線部受付周辺は、改修前に比べて格段に広く、明るくなり、受付周辺には絵画が並びギャラリーの雰囲気です。再整備に伴い、装置の更新、移設を行いました。改修前と動線が異なる検査室もございますので、皆様にはご周知の上、ご協力よろしくお願いします。

▲放射線部の受付



◀放射線部と薬剤部の配置図

薬剤部の移転について

薬剤部長　成澤　寛

平成29年5月、病院再整備計画に基づき薬剤部は移転となりました。移転するにあたり、調剤や調製など、従来の薬剤師業務を高度に自動化した〝インテリジェント薬剤部〟構想を立案しました。

近年、薬剤師の業務は大きく変革しています。病棟薬剤師業務や薬剤師外来、かかりつけ薬剤師など新たな制度がスタートし、これまでの調剤中心の業務から、チーム医療の重要なメンバーとして臨床現場に積極的に関わる薬剤師へとシフトしつつあります。薬剤師は調剤や調製に多くの時間を費やしています。高度に自動化された設備を導入することで、ヒューマンエラーを防止し、薬剤師の調剤業務の軽減を図り、調製薬剤の品質担保を確実なものにすると共に、院内他部門や外部医療機関と連携することで、新時代の薬剤部を構築することを目指しました。

これまでの〝もの（薬）〟中心の業務から、〝ひと（患者）〟中心の業務へとシフトし、安全で最適な薬物療法の提供を通じて、顔の見える薬剤部へと進化していきたいと考えております。今後ともご理解、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

（文責：薬剤主任　細谷　和久）

▲薬剤部内部の様子

メディカルサポートセンターについて

センター長　安西　慶三

「入院時にお困りのこと、不安なことはありませんか」。平成29年5月から業務を開始したメディカルサポートセンター（MSC）は患者さんの入院時の不安を解消し、円滑な診療支援を行うセンターです。2名の事務と3名の看護師、1名の薬剤師が配置され入院前の説明を行っています。外来で入院予約を決定した後、メディカルサポートセンターに来ていただき、医療事務から入院の手続きに必要なものや医療費に関する説明を受けた後、看護師から入院後の検査や手術の説明とともに患者さんの生活や症状などの情報をお聞きし、病棟の看護師に繋げることにより、円滑な入院生活が過ごせます。また、必要に応じて薬剤師が患者さんの服用している薬剤をお聞きして、手術に支障がないように配慮します。さらに退院後の生活に不安を感じている患者さんに対しても、退院支援看護師と連携をとってサポートしています。メディカルサポートセンターはセブンイレブンを通り過ぎた先の1階病棟の入り口付近にあります。まだ業務開始して半年であり全診療科の患者さんの支援は出来ておりませんが、今後さらに充実させたいと思いますので皆様のご支援、ご活用のほどよろしくお願いいたします。

ペインクリニック・緩和ケア科の改組について

診療科長　平川奈緒美

2005年に麻酔科蘇生科のペインクリニック部門から地域包括緩和ケア科が独立し、主にがん性疼痛の治療を行ってきましたが、地域包括緩和ケア科が3月末でなくなり、改組により、がん、非がんを問わず痛み全般の診療を行う「ペインクリニック・緩和ケア科」が新設されました。スタッフは、平川、上村聡子、笹栗智子、濱田献の4人で、濱田は緩和ケア専従です。4人とも麻酔科蘇生科出身で、麻酔科指導医でもあります。がん性疼痛に関しては、がん対策基本法が施行され、がんと診断された時からの緩和ケアの介入が奨励されています。慢性痛に関しては、厚生労働省が「慢性の痛み対策事業」を展開し、社会的関心も高まってきています。今や「痛み」そのものが診療の対象となっており、このような時期にペインクリニック・緩和ケア科として一つの診療科となれたことで、今後はより一層痛み治療に貢献できたらと思っております。また、これまでペインクリニックで行ってきました神経ブロックや手術療法を利用した手掌多汗症などの非疼痛性疾患の治療も引き続き行っていきます。いろいろな難治性の痛みについて、気軽に相談していただき、診療の一助となることができるようスタッフ一同頑張る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

診療科紹介　呼吸器内科

診療科長
荒金　尚子

日本呼吸器学会指導医3名、専門医5名、総合内科専門医5名、がん薬物療法指導医2名、専門医3名を含む9名の体制で幅広く呼吸器系の疾患に対応しています。

肺がん：超音波気管支鏡を用いて、リンパ節生検、小型肺がん生検も積極的に行っています。呼吸器外科と密に連携し、初診から手術までの期間を最短で行えるように努めております。最近続々と上市されている分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤の投与については、専門医を中心に対応しています。特にEGFRチロシンキナーゼ阻害薬の選択や獲得耐性検出において、当科が開発した検査法を用いて末梢血中の遊離DNAから遺伝子変異を同定する"liquid biopsy"により適切な治療選択を行っております。この検査については当科主導の多施設共同前向き臨床研究を開始し、全国26施設が参加しています。

COPD・気管支喘息：日本アレルギー学会専門医の指導の下、早期に適切な治療介入を開始しています。COPDは心血管疾患や糖尿病との合併が多いため、他科や生理機能検査室と連携し早期発見に努めております。治療開始後は、病・診、病・病連携を図り、かかりつけ医の下での加療をサポートする体制を整備しています。呼吸リハビリテーションの充実のため、毎週、多職種による呼吸リハビリカンファレンスを開催しており、治療方針の決定を行っています。今年度から、当科主導の多施設共同研究、長時間作用性抗コリン薬／β2刺激薬配合剤の症状・呼吸機能・身体活動量への効果に関する研究を開始しました。

間質性肺疾患：10年程前までは、在宅酸素療法や少量ステロイドや免疫抑制剤しか対処法がなかった特発性肺線維症に対して、2種類の抗線維化薬が上市されました。また、CTによる画像診断の精度が向上したこともあり、より積極的な診断・治療が求められています。本院でもこれまで以上に間質性肺炎に対する診療に力を入れております。

看護の日イベント

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日を「看護の日」として、1990年から全国で様々な取組みが行われています。

本院でも5月12日の10：30～13：30、玄関ロビーでイベントを行いました。

今年のテーマは、「いのちに寄り添うプロフェッショナルとして」。そこで、本院の専門看護師・認定看護師21名を各領域別に紹介するポスターを作製し展示しました。専門・認定看護師がいることを知らない参加者も多く、地域の方々にアピールする場になりました。

また、昨年同様、佐賀県肝がん撲滅マスコットキャラクター「肝ちゃん」が応援に駆けつけ、会場は盛り上がりました。

「管理栄養士による栄養相談」では、食品別に含有する食塩などの調味料を実物で展示し好評でした。「肝炎コーディネーターによる肝炎に関するQ&A」、「モデルを使っての自己乳がん検診」など、外来患者はじめ、177名の方に参加していただきました。

認定看護師紹介

1階北南病棟
川﨑　美紀子

平成29年4月1日付で、一般社団法人日本精神科看護協会の精神科認定看護師を取得いたしました。

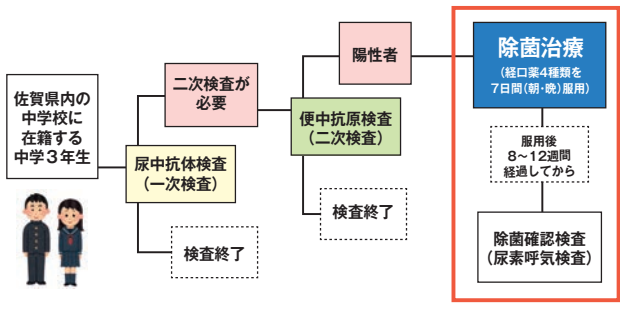
日常や社会生活の中で、生きづらさを抱えている方に対し、その人らしい生活を取り戻すための支援をしています。そのためには、身体的・心理的・社会的側面から健康状態を捉え、補完し調和を図ることが重要であり、チーム医療が不可欠です。チームメンバーの一員として、その人の持つ本来の力や、可能性を伸ばしていけるようにケアを行っていきたいと考えています。

未来へ向けた胃がん対策推進事業について

小児科助教
垣内　俊彦

佐賀県は胃がん死亡率が全国よりも高く、胃がん対策は重要な課題の一つです。胃がん発症の約8割はピロリ菌が原因とされており、ピロリ菌の除菌年齢が若いほど、胃がん発症リスクを減らすことができると言われています。

今迄の胃がん検診における早期発見（二次予防）を目的にするのではなく、将来の胃がん発生自体を予防していく取り組み（一次予防）として、平成28年度より佐賀県では、全国に先駆けて県内すべての中学3年生を対象に、検査から除菌治療、除菌判定検査まで全額県からの公費負担で実施する「未来へ向けた胃がん対策推進事業」を開始しました。事業センターを佐賀大学医学部小児科内に設置し運営しています。



内容は、春に実施される学校検尿の残りの尿を利用して、本事業に同意された生徒には尿中ピロリ抗体検査を実施します。陽性者は自宅で採便し、事業センターに郵送してもらい便中ピロリ抗原検査を実施します。そこで両検査とも陽性者をピロリ菌感染者とします。感染者は、県内の22除菌協力医療機関に出向き、医師の説明を受けた後に除菌治療を受け、後日除菌判定を行う方法です。

平成28年度は、対象生徒8，912人のうち検査に同意した人は6，994人（78・5％）。うち尿・便検査ともに陽性であったピロリ菌感染者は248人（3・5％）でした。現時点で、感染者のうち75％の生徒が除菌治療を受けており問題となる副反応もなく除菌が成功しています。

実際に除菌を受けた生徒の保護者からは「早い段階で感染がわかってよかった。」「親の責任として治療を受けさせることができるのでありがたい。」「佐賀県に生まれてよかった。」などとの感謝の言葉を頂いています。さらには、この事業をきっかけに、ピロリ菌やがんについて家族で話し合ってもらえればと考えています。

連携病院紹介　小柳記念病院

理事長
小柳　博嗣

【病院紹介】

当院は、佐賀市南部の諸富町で、212床の入院病床を有する、2次救急病院です。外来診療科は、内科・外科・脳神経外科・整形外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・循環器内科・消化器内科・消化器外科・皮膚科・腎臓内科・肝臓内科・神経内科・麻酔科・眼科・神経放射線科・緩和ケア・救急科・リハビリテーション科の診療を行っています。

入院施設は、一般病棟・回復期リハビリ病棟・療養病棟・特殊疾患病棟の5病棟を有しております。

今後は、緩和ケア病棟を開設する予定です。

急性期医療から、回復期リハビリ・療養医療までを行い、地域連携室を通して、自宅・介護施設への退院支援を行っております。地域に根付いた医療サービスを提供しています。

【本院との連携】

佐賀大学医学部附属病院には、日頃から当院の救急患者、手術等の高度医療治療の際、快く転院の上、ご加療いただいております。

高度医療治療後には、当院へ転院のご紹介をいただき、回復期リハビリ・療養医療での連携にご尽力いただいており感謝いたしております。

今後も地域のニーズに応えられる安定した医療サービスを提供していくためにも、今後とも変わらぬご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。

当院も、医療の質の向上を図り、地域医療に貢献できるよう努力して参ります。

廣木技師長　大臣賞受賞

放射線部診療放射線技師長の廣木昭則氏が、5年に一度、全国の診療放射線技師のなかで特に功績が認められた技師1名に贈られる厚生労働大臣賞を受賞いたしました。

同氏は長年にわたり本院の放射線診療に携わり、優れた技能を習得し、現在は技師長として技師の育成にも尽力されています。

▲廣木技師長（左）と山下病院長（右）